

# 富士山麓における協働・参加型による 生物多様性に富んだ森づくり

イベントの  
延べ参加者数 455人

植栽本数 1,200本

活動の全体目標  
に対する達成度 75%



補修前の風雪害で倒れたネット

## ◆成果と工夫したポイント

### ●成果

様々な主体と協働し森づくりを行うことで、それぞれのリソースを活かした効果的な活動となり、技術・ノウハウ等も共有され、さらに、地元機関等の関心度が高まり、今後も継続的な森林保全活動の実施が期待できる。

### ●工夫

活動の意義を普及啓発する目的も含めてボランティアを募り、平成27年度も455名が参加した。

## 課題

世界文化遺産登録の構成資産エリア内で、シラベ人工林約100haに甚大な害虫被害が出た。被害地を害虫被害に強い生物多様性に富んだ森に再生することが求められた。

## 目標

全国的に被害が深刻化しているシカの食害リスク対策として設置してきたネットが、風雪などの影響で倒壊が激しい地域が発生した。放置すると、ネットでの環境破壊やシカの食害拡大につながるため対策が必要になった。

## 活動内容

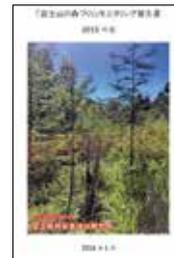
シカの食害対策ネットの倒壊への対策として、ネットのメンテナンスを行った。また倒壊したところは植栽木の枯死率も高く、併せて補植も行った。本年のボランティア約450人中、約380人の参加を得て、1,200本の補植を実施できた。また、別の植栽列では、植栽木の周囲の実生木や草木の成長が著しく、植栽した広葉樹の生育を妨げる恐れが出てきた。74名のボランティアと林業者で3.74haの除伐を行った。

## 達成できなかったこと

枯死率50%以上の植栽列が調査列の16%を占め、補植するとすると、概算で植栽列は約44列、約3,000本の苗木が必要となるが、資金が調達できていない。

## 今後の展望

ウッドガードを超えて、樹高150cmに達した木の被食率が高く、新たにネットでの防除が必要である。



モニタリング調査報告書  
(2015年度)